

## レクリエーションスポーツマネジメント

《履修上の留意事項》科目の一部について実際に地域へ出て障がいがある方との交流を行うが、土日を活用するため留意すること。

《担当者名》近藤 尚也 n-kondo@hoku-i-ryo-u.ac.jp

## 【概要】

本科目では実際に障がいがある人に向けたレクリエーションスポーツ（アダプテッド・スポーツ）活動のあり方について学習する。実際に企画・実施・評価ができるよう、レクリエーションスポーツに関する基礎的な知識を身に着けるとともに、実際に一連の流れを体験する。

## 【学修目標】

- ・障がいがある人に向けたレクリエーションスポーツ（アダプテッド・スポーツ）活動について理解できる
- ・障がいがある人に向けたレクリエーションスポーツ（アダプテッド・スポーツ）活動を企画できる
- ・障がいがある人に向けたレクリエーションスポーツ（アダプテッド・スポーツ）活動を実施・評価できる

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	レクリエーションスポーツマネジメントの概要が説明できる	近藤
2	レクリエーションスポーツの理解	具体的なレクリエーションスポーツについて理解できる	近藤
3	レクリエーションスポーツの企画	レクリエーションスポーツ活動に関する企画書の書き方について理解できる	近藤
4	対象別レクリエーションスポーツ企画	参加対象や場所を想定したレクリエーションスポーツの企画のあり方について理解できる	近藤
5	レクリエーションスポーツ企画の理解1	レクリエーションで使用する用具を検討できる レクリエーションスポーツの企画書を作成できる	近藤
6	レクリエーションスポーツ企画の理解2	レクリエーションで使用する用具を検討できる レクリエーションスポーツの企画書を作成できる	近藤
7	レクリエーションスポーツ企画の理解3	活動におけるリスクとその対策について検討できる レクリエーションスポーツの企画書を作成できる	近藤
8	レクリエーションスポーツ企画の理解4	活動における評価の方法について検討できる レクリエーションスポーツの企画書を作成できる	近藤
9	レクリエーションスポーツ企画の理解5	レクリエーションスポーツの企画内容について他者へ説明できる	近藤
10	レクリエーションスポーツの実際1（準備）	レクリエーションスポーツを実施するための準備を行うことができる（学外授業）	近藤
11	レクリエーションスポーツの実際2（実施）	レクリエーションスポーツを実施することができる（学外授業）	近藤
12	レクリエーションスポーツの実際3（片付）	レクリエーションスポーツ実施後の片付ができる（学外授業）	近藤
13	レクリエーションスポーツに対する評価1	実施した内容の振り返り・評価を実施できる	近藤
14	レクリエーションスポーツに対する評価2	実施した内容の振り返り・評価を報告書にまとめることができる	近藤
15	報告とまとめ	報告書を使用して活動の評価を説明できる 全体の振り返りができる	近藤

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】  
導入している

【評価方法】  
参加態度50%、レポート50%の合計100%にて評価する。

【教科書】  
必要に応じて提示する

【参考書】  
必要に応じて提示する

【学修の準備】  
授業の準備として、レクリエーションスポーツや、シラバスの該当内容について調べ予習をしておくこと(2時間)。毎回の講義内容や講義資料を参考に、その内容について復習を行うこと(2時間)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】  
DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。  
DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】  
中級パラスポーツ指導員

【実務経験を活かした教育内容】  
アダプテッド・スポーツ、パラスポーツのイベント等に関する実践経験を活かして講義を行う。

【その他】  
この科目は主要授業科目に設定している